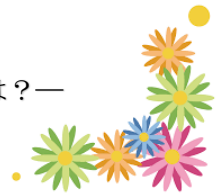




『私の乳房、高濃度！？』—マンモグラフィーとエコー、その違いとは？—



乳腺科 佐々木 恵里 医師

女性の11人に1人が乳がんになるという時代。

早期発見のカギを握るのは検診。『マンモグラフィー受けなくては！』と思われている方も多いのではないのでしょうか？しかし、国が検診として40歳以上の女性にすすめる乳房X線撮影（マンモグラフィー）だけでは乳がんを見つけにくい場合があるのをご存知でしょうか？

それが「高濃度乳房」の場合です。

乳房内には母乳を作る乳腺があり、乳腺密度が高い順に、「高濃度」「不均一高濃度」「乳腺散在」「脂肪性」の4段階に分類されます。「高濃度」と「不均一高濃度」は日本人の約40%に見られるともいわれています。

マンモグラフィーでは脂肪は黒く、乳腺は白く写ります。高濃度・不均一高濃度乳房では乳腺は真っ白に写り、乳がんも白く写るため、『雪山でゴルフボールを探すような状態』となり、乳腺にしこりが重なって見つけられない場合があります。

ではそういう場合はどうしたらいいのでしょうか？

そこで効果を発揮するのがもう一つの検査、エコー検査（超音波検査）です。エコーでは乳腺は白く、腫瘍は黒く写ることが多く、コントラストがつくために高濃度・不均一高濃度の場合でも腫瘍を見つけることができます。40代の日本女性7万6千人を対象とした「J-START」という調査では、マンモグラフィーとエコーの両方を併用した場合、マンモだけより乳がん発見率が1.5倍になりました。（ただ現時点では国の指針としては、一般の検診としてエコーはまだ推奨されていません。検診に加えることで死亡率が減少するかどうかはまだ検討中のためです。検診で死亡率を下げることを証明されているのは今のところマンモグラフィーだけです。）

一方で、マンモグラフィーでは乳管の中を這うように広がるような、しこりを作らないタイプの乳がんが、石灰化という砂粒のような点々でわかることもあります。石灰化に関してはマンモグラフィーのほうがよく検出できることが多く、マンモグラフィー、エコーともそれぞれ長所・短所があり、特性を知って検査を受けることが大切です。

マンモグラフィーを受けた後、その結果を聞く時には是非質問してみてください。

『私の乳房高濃度ですか？』と。そして高濃度、不均一高濃度の場合はエコー検査を受けてみてください。それで助かる命はあなたの命かもしれません。

